



# 『菅野地区』をたずねて



弥勒寺本堂(国指定文化財)

菅野地区は、菅生川の中流域から上流域に位置する。『播磨国風土記』に菅生里の名がみえ、霊亀元年(715)頃には菅生郷となった。その後、戸倉以北は嘉祥3年(850)増位山随願寺に寄付されて<sup>あぞの</sup>助野庄となり、古瀬畑以南は建久2年(1191)後白河法皇の持仏堂である長講堂の<sup>ちまき</sup>莊園菅生庄となった。永正2年(1505)菅生庄から進上した特産物に<sup>すごうだに</sup>粽がみられる。江戸時代初期、菅生澗・寺の2村は池田氏支配の姫路藩領になるが、つづいて幕府領、龍野藩領などと小刻みに支配者が<sup>すごうだに</sup>変遷する。他の村は<sup>こせぼた</sup>姫路藩領であった。

明治22年(1889)の町村制施行により<sup>すごうだに</sup>菅生澗・寺・塚本・<sup>こせぼた</sup>古瀬畑・<sup>ごじ</sup>芦田・<sup>のぼたけ</sup>護持・<sup>あぞの</sup>戸倉・野畑・<sup>あぞの</sup>助野の9ヵ村が合併して飾西郡菅野村となる。昭和30年(1955)菅野村は置塩村・鹿谷村と合併して飾磨郡夢前町となり、平成18年3月27日姫路市に編入されて現在に至る。

この地域は書写山とのつながりが深く、性空上人が隠棲して草庵を建てた弥勒寺をはじめとする文化財、史跡が多い。

**浄蓮寺(菅生澗)** 浄土真宗本願寺派。永正13年(1516)道円の開基（「本末開基帖」には宝徳3年(1451)とある）、天和3年(1683)に木仏を下付された。はじめ本願寺派であったが、寛文年中(1661~73)に一時大谷派に属し、その後本願寺派に復帰したという。



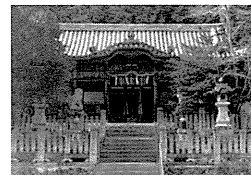
浄蓮寺

**善照寺(菅生澗)** 真宗大谷派。明確でないが、はじめ天台宗の道場があり、15世紀中頃に浄土真宗の道場ができたらしい。了道の開基。東隣山麓の田畑に代官屋敷とよばれている所がある。

善照寺



**杵築神社(菅生澗)** 創建年代不明、現社殿は大正3年に移転新築。祭神は大国主命・野見宿禰・菅原道真など。明治44年八幡神社と外4社を合祀。多気明神・多気宮(竹の宮)ともよばれる。野見宿禰を祭るので相撲社ともよばれる。むかしは<sup>こもと</sup>異相撲とよばれて荒い喧嘩相撲で広く知られたという。神殿階段下に赤松義則寄進と伝える狛犬がある。



杵築神社

**長谷山遺跡(菅生澗)** 杵築神社北の長谷山で昭和56年菅生小学校6年生児童が弥生式土器の破片を発見。その後多数の土器片や鉄斧が出土した。

**専念寺(寺)** 真宗大谷派。『飾磨郡誌』によると、天和3年(1683)養源の開基、元文3年(1738)3世円了が本堂を建立、文政2年(1819)7世了源が改築したのが現在の本堂。

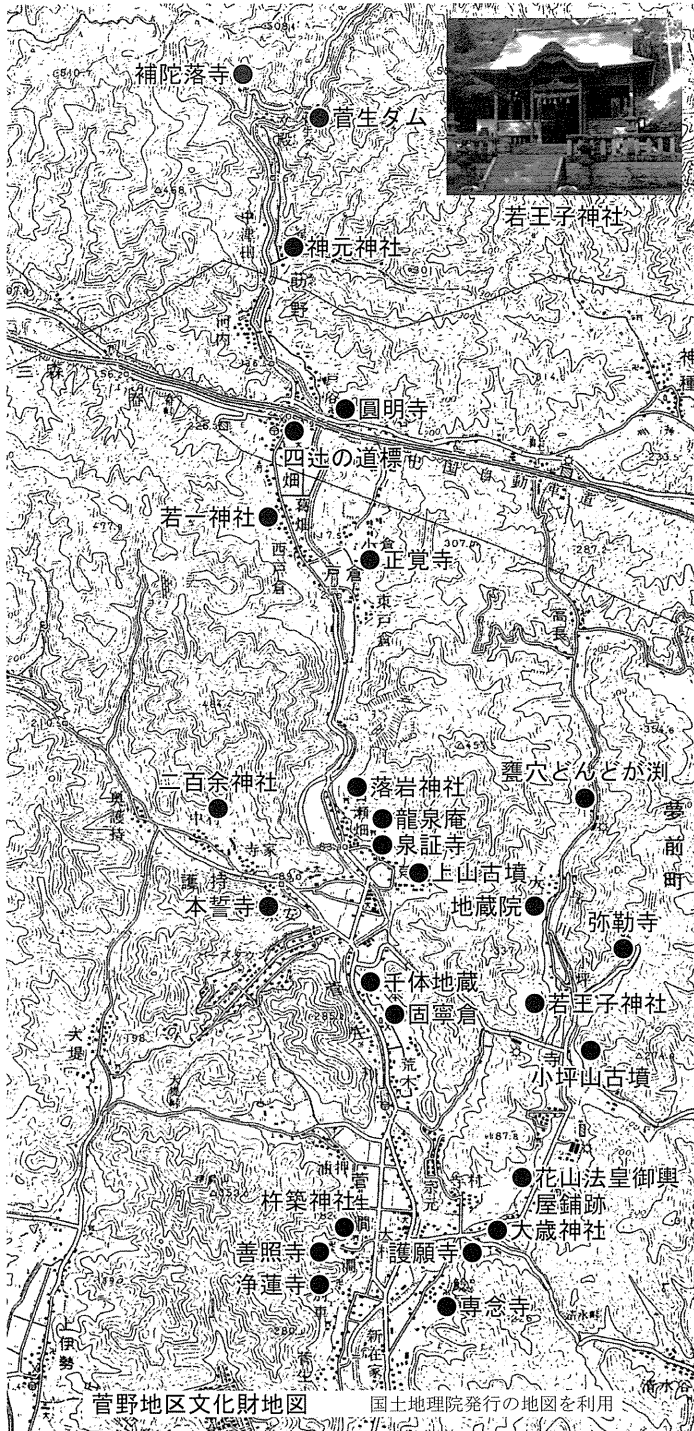
専念寺



**大歳神社(寺)** 寺と鯰尾の氏神。祭神は屋船久久能知神・千置帆負神・豊受姫神・彦狭知神。創立時期は不明だが、慶長年間(1596~1615)には存在していたようである。もと北方の山地にあったが、昭和33年に現地に移す。天明8年(1788)の石灯籠がある。

大歳神社

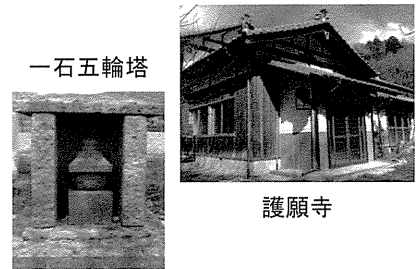




若王子神社(寺) 創立時期は不詳。

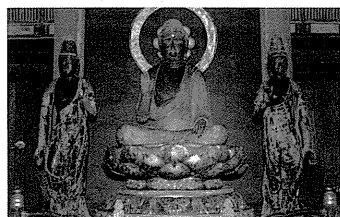
『磨師郡誌』に弥勒寺の守護社と記し、慶長年中(1596~1615)の改築時に池田輝政より土地の寄進を受け、その際若王子権現を若王子社に、祭神も若王子権現を伊弉册神に改めたとある。現本殿は一間社春日造りで覆屋にあつて保存状態がよく、市指定文化財。鳥居は明和2年(1765)のもの。鳥居を入った所の大杉は市指定文化財。境内の手洗鉢は昭和2年のものだが、鉢を担ぐ力士などが面白い。

花山法皇御輿屋鋪跡(寺) この地は花山法皇御休息の地と伝えられる。「花山法皇御輿屋鋪」と刻んだ高さ約30cmの一石五輪塔がある。



護願寺(寺) 天台宗。本尊は薬師如来。成立時期不詳だが、中興開基は覚心(没年は寛延元年)。本堂の脇段に安置する阿弥陀如来は同所にあつた来迎寺の本尊と伝える。

彌勒寺(寺) 天台宗。書写山円教寺開基の性空上人が長保2年(1000)に建立した草庵が始まり。同4年(1002)に巨智延昌が花山法皇の勅命により弥勒堂・護法堂・護摩堂を建立してより通宝山弥勒寺と称した。



木造弥勒仏及両脇侍像  
(国指定文化財)

現在の本堂は康暦2年(1380)赤松義則によって再建されたもの。本堂と本堂の弥勒仏・脇侍仏2体は国指定文化財。開山堂の厨子は県指定文化財。開山堂・宝永8年(1711)再建の護法堂・元弘2年(1332)の銘がある石幢・宝塔は市指定文化財。宝塔は室町時代に補修されたいし基壇を除いて鎌倉時代後期の作と考えられる。塔身正面の線彫りの扉はきわめてめずらしい。

小坪山古墳(寺) 小坪集落の東の尾根にある小型の横穴式石室を持つ。円墳で盛土は崩れ落ち石室の上壁の石も持ち去られたのか今はない。

地藏院(寺) 黄檗宗。本尊は木像の地藏菩薩、背面に享保5年(1720)とある。『飾磨郡誌』に記す当院の鐘銘には、宇治万福寺末寺で、享保年中(1716~36)に大椿禅師がこの寺を中興したことなどを詳細に記載している。

おうけつ甕穴どんどが淵(高長と大坪の境付近) 高長より流れ出た水が約2mの滝下に、およそ8.5m×5.3m、深さ3mほどの甕穴をつくり、さらに水は2mの滝となり、その下にまた甕穴をつくる。

千体地藏(塚本) 高さ110cm、幅87cmの板石の中央やや上に高さ51cmの地藏菩薩像を中肉彫りし、これを囲むように小さな地藏像を20段に千体線彫りしている。板碑の背面中央に「南無地藏大菩薩千体」、その右に「現世安穏後生善処祈攸也善阿也」、左に「元和六年(1620)庚申九月吉日」と刻んだきわめてめずらしい千体地藏である。市指定文化財。堂の前に天保10年(1839)の石灯籠がある。

固寧倉(塚本) 凶作や災害に備えて穀類を蓄えた倉庫。飾西郡町村組大庄屋らが家老河合道臣(寸翁)に備荒貯蓄を目的とする倉庫の創設を建議したのにはじまる。「固寧」は『書経』の「民惟邦本、本固邦寧」から名付けられた。菅野地区では塚本と戸倉に残っている。

本誓寺(護持) 浄土真宗本願寺派。本誓寺縁起に、寛和2年(986)巨智延昌が鍋倉山辺に建立した多聞寺を開基と記す。のち後醍醐天皇が隠岐より無事帰洛されるよう祈願の護摩をつとめた功により、寺号を瑞雲山護持寺と改められ、地名も鍋倉から護持村となったという。文安5年(1448)25代住職恵門が真言宗であった寺を浄土真宗に改宗し、寺号を瑞雲山本誓寺と改めたという。現在工事中で、平成25年完成予定。

二百余神社(護持) 天照大神・八幡大神・春日大神などを祭る。寛和2年(986)巨智延昌が多聞寺(本誓寺の前身)の鎮守社として創建。後醍醐天皇が隠岐島より還幸の途中多聞寺で護摩を修せられ、鎮守社に天神地祇12代、神行64座、播磨174座を合祀して二百余社と称するようになったという。当社にあった狛犬(木像)のうち吽形像の底に元亨4年(1324)とある。県指定文化財で、現在は兵庫県立歴史博物館に寄託されている。

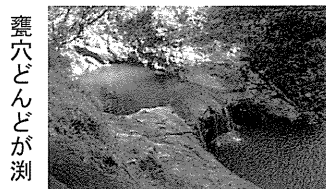
薬師堂(護持) 二百余神社のすぐ西の少し小高い所にある。薬師如来(163cm)と大日如来(110cm)を祭る。薬師仏はもと本誓寺の前身である多門寺に祭られていたものだと伝える。室町時代の作ではないかといわれる。この堂は神仏混合の名残。

上山古墳群(芦田) 泉証寺東の山に横穴式石室を持つ円墳が4基あるが、保存状態はあまりよくない。1号墳は直径15mの円墳。南正面の羨道入口が土砂で埋まり、墳丘は崩れてなくなり玄室が上から見えている。

泉証寺(芦田) 真宗大谷派。はじめ天台宗長顕寺があったが、文明5年(1473)第10世法円のとき浄土真宗に改宗したという。寛永8年(1631)現在地に移り、寺号を泉証寺と改めた。



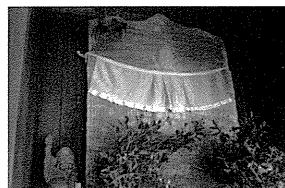
地藏院



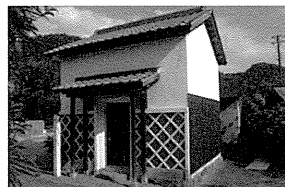
甕穴どんどが淵



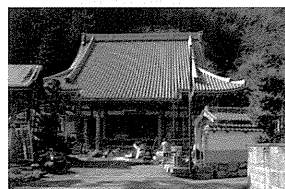
千体地藏堂



千体地藏



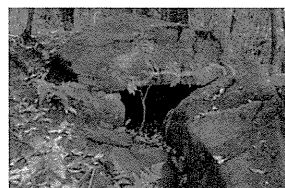
塚本の固寧倉



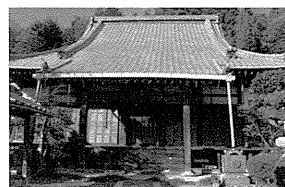
本誓寺



二百余神社

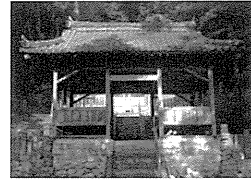


上山古墳



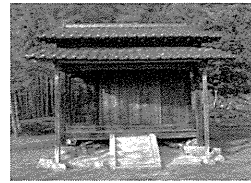
泉証寺

おちいわ  
**落岩神社**(古瀬畑) 祭神は武甕槌神。創建時期は不明。延享5年(1748)の「播磨諸所随筆」にみえる。一説に滝が峯の南麓東山の巨石が崩れ落ちた所に一社を建て、二百余社より神霊を勧請したとある。



落岩神社

**龍泉庵**(古瀬畑) 本尊は薬師如来で、地元では薬師さんと呼ぶ。天保11年(1840)の本条氏伝によると、先祖が山を開墾したときに石薬師二像を見つけ、庵を建立して安置したとある。庵の東に一石一字の経塚があり、塚の上に自然石で嘉永7年(1854)と刻まれた大乘妙典塔を建てている。塚の横に享保11年(1726)銘の地藏尊を祭る。



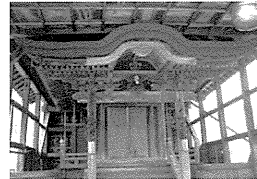
龍泉庵

**正覚寺**(戸倉) 天台宗。本尊は阿弥陀如来。『飾磨郡誌』には、長保4年(1002)性空上人の開基とある。はじめ堂山の山上にあったが、焼失して平地に移築し、そののち現在地に移ったという。

正覚寺



じゃくいち  
**若一神社と農村舞台**(野畑) 若一神社は野畑村の氏神であったが、野畑が神元神社の氏子に合併してから神元神社を奥の宮、若一神社を口の宮と称し神元神社の摂社となった。境内の舞台は、明和9年(1772)藩の許可を得て建立したものである。もとは藁葺であった。境内に文化8年(1811)の石灯籠と力石が3つある。



若一神社



四辻の道標

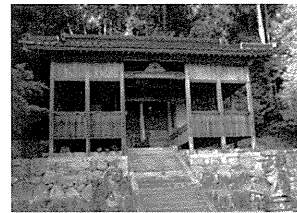
**四辻の道標**(苜野) 古い時代の因幡街道筋にあたる。道標には「右ひめじ 左京道」とある。道路状況の変化でこの位置に移されたものと考えられる。

えんみょう  
**圓明寺**(苜野) 天台宗。本尊は薬師如来。天禄元年(970)性空上人の開基と伝える。はじめ現在地より600mほど東北の苜野谷の山上にあったが衰微。のち一心上人が再興し、やがて修験道場となり播磨教学院と称して人々を導いたという。大正12年(1923)山上から現在地に移築した。当寺には苜野の神元神社の神宮寺所蔵の貞応2年(1223)の般若若経のうち600巻(200余巻が現存)と天保3年(1832)出版の鉄眼版般若若経600巻を保管している。墓地に大乘妙典塔・宝篋印塔・五輪塔がある。



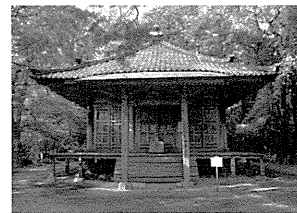
圓明寺本堂

かんのもと  
**神元神社**(苜野) 第21代雄略天皇の時に創立と伝わる。祭神は伊邪那岐尊・伊邪那美尊・国常立命。川内明神・神元大明神・神元三社大明神ともよばれた。随神門は変形の八脚門で、本殿とともに文化元年(1804)の再建。



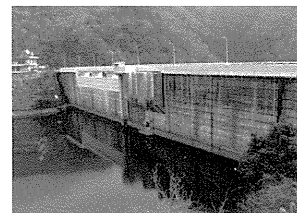
神元神社

**補陀落寺**(苜野) 天台宗。性空上人の開基で、上人自ら十一面観音像を彫り本堂に安置したといわれる。天禄2年(971)建物が完成して寺号を補陀落寺と称したという。本堂の観音堂は県指定文化財。一段上に聖天堂を祀る。境内に寛保元年(1741)の一石一字の経塚があり、その上に大乘妙典塔が建っている。また五輪塔のすぐ前にある地藏尊の台石には享保17年(1732)と刻まれている。



補陀落寺観音堂

**菅生ダム**(苜野) 菅生川の上流で明神山の麓にある。昭和40年(1965)の水害で菅生川沿いの地域が大きな被害を受けたため、治水事業として昭和49年にダムの建設に着工し、昭和53年に完成した。新緑や紅葉期の景観が美しい。



菅生ダム

■編集 出口隆一(姫路市文化財嘱託調査員)